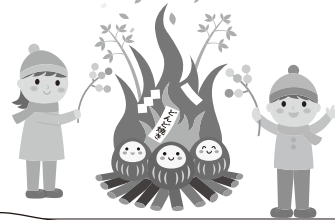




# 各町会の三九郎

今年の三九郎の様子をお届けします。補助されている、PTA・子ども会育成会・公民館役員さん・町会役員さん等、大変ですが、伝統行事として、大切に受け継がれているようです。少子化で大変ですが、「大人の三九郎」もあっても良いかもしれません。来年もよろしくお願いします。【館報編集委員 清水寿雄】

世帯数 6,157戸  
人口 13,693人  
(令和6.3.1現在)



下瀬黒町会  
1月6日 牛伏川西側河川敷



竹原町町会  
1月6日 寿運動広場東側畑



小池町会  
1月13日 小池公民館南側農地



白川町会  
1月13日 白川農村公園



寿田川町会  
1月7日 田川河川敷



赤木町会  
1月7日 上の宮



寿田町町会  
1月7日 田川右岸河川敷



白姫町会  
1月7日 新白姫橋北側河川敷



豊町町会  
1月7日 第1常会駐車場



百瀬町会  
1月6日 田川河川敷



上瀬黒町会  
1月13日 上瀬黒グラウンド



竹瀝町会  
1月7日 下木戸



# わがまち「皆で歩む」下瀬黒町会

岳都の名のとおり北アルプスを臨む松本市、その中でも下瀬黒地区の高台からの眺めは雄大なものです。早朝に見る雪の乗鞍岳、そして常念岳。この常念岳を見て一日の活力を貰う方も多いと思います。

下瀬黒は寿地区の一番北側に位置するということもあり、学校・病院・買物等は概ね隣接の並柳地区になります。しかし公共交通機関がないため、住民の高齢化に伴う交通弱者の増加が町会での大きな課題です。AI活用型オンデマンドバス「のーと松本」の試験乗車が行われていますが、利用範囲の拡大・料金の改善などを検討し、是非とも継続を願いたいものです。

下瀬黒町会では、子どもたちが健やかに成長できる町づくりを目指し、コロナ禍で一時中断していたお盆の伝統行事の再開や、小学生を中心とした公民館の花壇への花植えなどを通して、地域の美化と協力の大切さを育んでいます。年配の方々には、心地良い時間の共有と健康維持を願い、月二回の百歳体操とカラオケを実施し、気軽に楽しんでいただけるようにとマ

イクロバスで送迎をしています。

また多様性が豊かな下瀬黒には魅力的な方も多く、その中のお一人「安曇野瓜太郎」さんは、総合病院や福祉施設での長い勤務経験をもつ音曲師です。二十五年程前に北アルプスの美しい景色に魅了された下瀬黒に移住されました。信念は「生活の中に音楽を」。その考えに基づき、病気や心配事で困っている時、今を大切にして欲しい、音楽を通じて少しでも心を温めて欲しいと、全世代の誰もが楽しめるコンサートを開催されています。その優しく温かい人柄が歌声から溢れ出ており、聞くものに感動と癒しを与えてくれます。ユーチューブも開設しています。皆様にも是非お聞きいただきたいと思えます。

【館報編集委員 杉浦澄枝】



# おもちゃ美術館視察研修

2月26日、寿地区地域づくり協議会子ども部会と寿小学校にこころルーム応援隊の主催による総勢24名の研修会に参加しました。目的地は木曾町にある「ふるさと体験木曾おもちゃ美術館」です。子どもたちを楽しく遊ばせる工夫を見つけられたらとの思いから目的地が決まりました。

おもちゃ美術館は廃校した黒川小学校の体育館を有効に活用しようと、令和4年11月に500種類、2,500点以上の木工玩具を擁する施設としてオープンしました。

美術館に入るとほのかな木の香り、木の幹からひびく虫の掛けに皆大歓声でした。

隣には5連や10連のけん玉があったり、バランスが難しい木の煎餅積みや夢中で挑戦したり、玉を転がすと「カタカタタ」という音や鉄琴の音が耳に心地よい様々な玉ころがしの玩具、

あつという間に時間が過ぎていききました。

奥へ進むと赤ちゃんの木育ひろばやのりものひろばがあり、2階にはりんごやぶどう、しいたけや赤かぶなどの果物や野菜の収穫ごっこが楽しめるごっこファームやピザ屋さん、そば屋さん、すし屋さんを体験できるごっこシヨップなどのユニークな玩具がいっぱいでした。

長野県は森林県、加工しやすい地元の県産材を有効に活用して、たくさんのお面白玩具が作られていることを実感しました。遊びは作り出すもの、手始めに2連のけん玉なんかどうかなと思いつきながら帰路に着きました。

長野県は森林県、加工しやすい地元の県産材を有効に活用して、たくさんのお面白玩具が作られていることを実感しました。遊びは作り出すもの、手始めに2連のけん玉なんかどうかなと思いつきながら帰路に着きました。

あつという間に時間が過ぎていききました。奥へ進むと赤ちゃんの木育ひろばやのりものひろばがあり、2階にはりんごやぶどう、しいたけや赤かぶなどの果物や野菜の収穫ごっこが楽しめるごっこファームやピザ屋さん、そば屋さん、すし屋さんを体験できるごっこシヨップなどのユニークな玩具がいっぱいでした。



10連のけん玉

2月8日に「寿つどの広場」で助産師栗林恵子さんの指導のもとに、赤ちゃんとの触れ合いの重要性や正しいタッチケアの方法について学びました。乳幼児とのタッチケアは、生後2か月から5か月に始めると良いとされ、25年ほど前にアメリカで提唱されたそうです。

赤ちゃんを見つめ合い、童謡を歌いながら素肌に触れ、胸から順々にマッサージを行います。お母さんになでられ穏やかな笑顔の赤ちゃん。皮膚は露出された脳と言われ触れ合うことで心が安定する作用があるため、乳幼児に限らず高齢者や身近な人に対して、タッチケアは不安を軽減し心身の安定を促進する効果があるそうです。

講習後は栗林さんによる育児相談も行われ、貴重な助言をいただきました。

講習後は栗林さんによる育児相談も行われ、貴重な助言をいただきました。



【館報編集委員 杉浦澄枝】

# 192サロン

タッチでコミュニケーション